

# 収量確保への一手

## 「有機農業公開セミナー」事例発表から

有機農業の普及と栽培技術の向上を目的とした公開セミナー「土づくりと新規就農への道を考える」(主催:有機農業参入促進協議会)が5日、オンライン形式で開催された。事例発表されたプロコリーへの長期どりと畜複合経営の概要を紹介する。

### プロコリーなど 遮光資材で発芽そろえる 品種と定植工夫し長期どり

三重県いなべ市・川崎 亮太さん(35)

川崎さんが営む「HAT AKEYA」では、農業や化学肥料を使わずに野菜を育てる。プロコリー栽培は、11月から翌年5月までの長期どりを目標としている。10坪当たり4500株を植え付け、条間1.25mの2条植

### 水稲・野菜 採卵鶏など 収量の確保へ圃場に透水管

群馬県高崎市大塚 一吉さん(67)



深さ80cmに設置した透水管

滝の里農場を営む大塚さんは、農業を使わずに水稲、炭、米ぬかを混ぜて作るホトリエレベーターで発生する米や麦の残さを使う。近隣の公園で発生する落ち葉を、夏場の野菜育苗にも収量を確保できていると話。

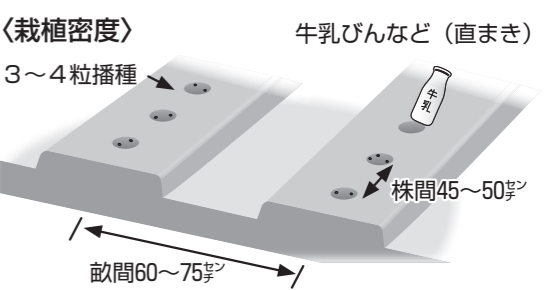
8月は夏野菜の収穫最盛期ですが、暦の上では「立秋」を迎え、秋に入ります。早急に寒さに向かうため、作付けの1日遅れが、収穫では3日、5日、10日の遅れになるので注意が必要で

### 野菜 営農ワンポイント講座

ハクサイ

結球期の適温は15〜16度です。結球期以降に気温23度以上が続き、株がどうにも腐って悪臭を発生する軟腐病が発生しやすくなります。早まきはウイルス病も多くなりやすいため、一方、播種が遅いと病害の心配は少ないものの、結球の原因になります。地域の播種適期を把握し、早すぎず遅すぎずが大切です。

省力性などから、移植栽培が多くなります。用意する育苗鉢の大きさは栽培面積によっても違いますが、自家用程度の栽培なら5〜9号鉢、育苗鉢数は9号鉢は50〜128穴のセルトレーから選んで利用します。



《栽培密度》 牛乳びんなど(直まき) 株間45〜50cm 畝間60〜75cm 3〜4粒播種

### 3 自然由来の有用物質 アミノ酸やミネラルなど多種多様

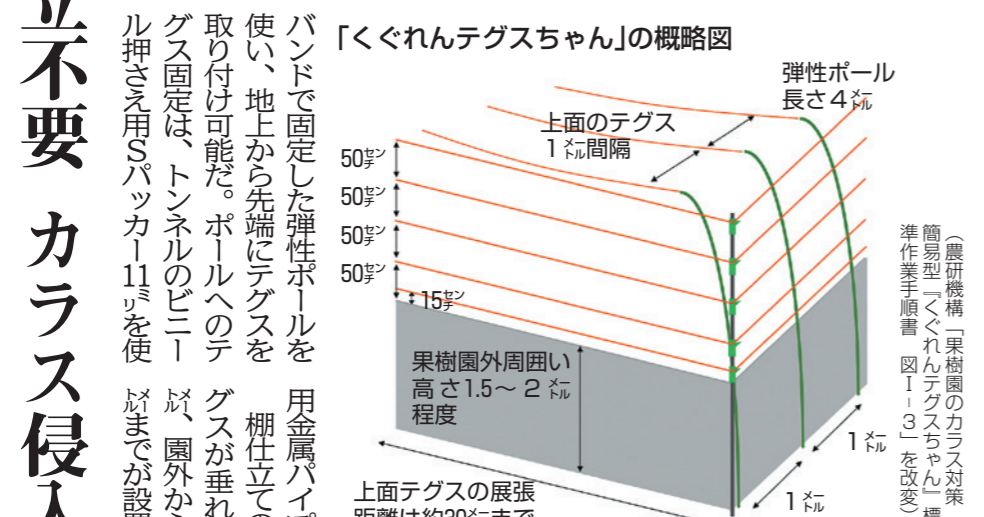
多くの自然由来の有用物質が、バイオステイミユラントとして分類されている。その一例を紹介したい。

### バイオステイミユラント 仕組みと効果を知る

直接的に吸収可能で、弱った植物の回復にも効果的である。糖度のアップや抗ストレス作用が期待でき、浸透圧の維持や葉緑素の合成に与えるものなどさまざまな種類がある。

### 簡易で確実に 鳥害対策

果樹や野菜類などの収穫期は、カラスやヒヨドリなど鳥害が発生しやすい。確実な被害対策となる防鳥網は資材費、設置労力、維持管理などの負担が大きい。



保志子上級研究員は「カラスの警戒心の高さを利用して、果樹園では、実用的に十分な侵入防止効果が得られる」と説明する。

### 設置に脚立不要 カラス侵入防ぐ

「くぐれんテグスちゃん」の概略図。弾性ポール長4m、上層のテグス1m間隔、50cm幅、50cm幅、50cm幅、果樹園外周囲い高さ1.5〜2m程度、上面テグスの展張距離は約30cmまで。

### ドローン除草剤散布 豆つぶ剤利用や自動航行で省力化

【栃木支局】水稲「コシヒカリ」一畝ひとりの夢など11畝、二条大畝60坪などを栽培する小山市生駒の毛塚博行さん(71)は、小型無人機(ドローン)での除草剤散布に取り組む。

### 里芋分離機「子ばなれ君」

株式会社ホクエツは、掘り取ったサトイモを電動で親芋と子芋に分離する「子ばなれ君」を発売した。

### 業界短信

株式会社クボタなどは、保有するロボットやAI(人工知能)などを活用した自動化技術や資機材を持ち寄り、ハウス栽培のスマート化に向けた実証実験を7月から開始した。